

鈔名物也、豈浮ケル事アラシヤ、又禁中ノ事、年中行事ニシカンヤ、既ニ廢マデ註セリ、爭ガ當時事漏哉、旁不審事也、乍去諸人皆七日ト思ヘリ、何ナル事歟、人可尋也、

〔世諺問答〕正月 問て云、七日にあつ物をくふは、何のゆへにて侍ぞや、答、正月は小陽の月なり、また七日は小陽の數なり、よつて朝廷をはじめとして、わたくしの家にいたるまで、宴會をもよほすなり、それにあつものを食すれば、万病また邪氣をのぞく術なりといふ本文あり、荆楚記と云ふ文にも、羹を食して人俗病なければ、けふを人日とするとみえたり、延喜十一年正月七日に、後院より七種のわかかなを供すとみえたり、七種わかかなといふは、薺はこべら、せり、御形、すゝしろ、佛の座などなり、北野天神も和菜羹、嚙口と作給ひたれば、むかしより侍りし事にや、

〔本朝食鑑〕粥 古者上元日、兼赤豆粥同獻七種粥、七種者米、小豆、大角豆、黍、粟、葷子、薯蕷、或曰、白穀大豆、小豆、粟、栗、柿、大角豆也、今俗正月七日、上下齋粥、中入燒餅子、而嘗之、此擬七種菜、則迎新之意乎、

〔春の七くさ〕公事根源に、延喜六十代醍十一一年正月七日に、後院より七種を供す、江家次第に、後院は冷泉院、朱雀院

等といふ也 菜とは、ひろく春くさの初苗をさしていふ名なり、略 又公事根源に、天曆六十二代村上天皇四年二月二

十九日、女御安子の朝臣、若菜を奉るよし、李部王の日記にみえたり、親李部王は式部卿兼明、若菜を親王、延喜の皇子なり、

十二種供する事あり、其種々は若菜はこべら、苣、せり、蕨、なづな、あふひ、芝、蓬、水蓼、水雲、一に松と見

へたり、略 中 天曆の御時に、十二種の名物は備たれど、七種の名物はいまだ詳ならず、略 中 或はい

ふ今松尾の社家より奉る七種は、芹、なづな、御形、はこべら、佛の座、是は周定王、教荒本草の風輪菜に充しくさなり、

すゝな、かぶ、らな、すゝしろ、根大、又あるひはいふ、今水無瀬家より獻する若菜の御羹は、青菜と薺ばかり

なりとぞ、また樞司供御所より奉る七種の御粥は、薺を少しまじへて奉るといへり、以上三説

たる事なれば、今關東にて七種の粥といふは、青菜となづなをまじへて祝ふなり、

たしくまらず、